

平成9年度前期期末試験問題

試験日1997年9月10日

刑法I

橋爪教官

〔第1問〕

正当防衛において防衛の意思は必要か。また必要説に立った場合、その内容はどのように理解されるべきか。判例・学説の対立状況を概観しつつ、自説を論じなさい。なお、防衛の意思を不要と解する場合も、防衛の意思の内容に関する判例・学説の状況に言及すること。(40点)

〔第2問〕

Xはアパートに一人暮らしのAを殺害しようと考えて、高級ワインに致死量相当の毒物を混入し、事情を知らない宅急便業者に対し、それをA宅に配送するように依頼した。しかし、宅急便業者が配送した際にAは不在であったため、ワインはそのアパートの大家Bのもとに預けられた。そのため、Bの長男CはそれをB宛に届けられたワインと誤信し、遊びに来ていた恋人Dとこれを飲んでしまい、C・Dともに死亡するに至った。Xの罪責について、反対説に言及しながら自説を論じなさい。

\* 解答の順序は問わないが、どの順序で解答したか分かるよう、問題番号を明記すること。